



原方刺し子 北欧出展へ



米沢藩の下級武士「原方衆」の妻が受け継いできた米沢市の伝統工芸「原方刺し子」が、米沢工業高専攻科の学生とタッグを組み、12月にフィンランドで始まる展示会に作品を出展する。唯一の作り手の遠藤きよ子さん(84)の風呂敷などに加え、学生は人気パズルゲームを活用したバーチャルチューバー(Vチューバー)が登場するフィンランド語の説明動画を用意した。同国の幅広い世代に魅力を発信する。

展示会は日本デザインマ
ネジメント協会が主催する
日本とフィンランドの交換
プログラムをきっかけに実
現した。今年3月、フィン
ランドの作家らが米沢市な
どを訪問。フィンランドで
は同国ユバスキュラの工芸
博物館で展示を開く。
遠藤さんは米沢特産のコ
イを描いた「鯉の滝登り」、
武士が自宅の玄関に敷き身
分を示した「花雑巾」、紅
花の刺しゅうを施した風呂

作り手と米沢工高専攻科生タッグ



米沢工業高専攻科の学生が制作したパズルゲーム
＝米沢市・刺し子工房「創匠庵」

12月～来年3月 フィンランド ゲーム、VチューバーでPR

敷など6作品を出品する。高齢と体調を理由に渡航は見送るといふ。

そこで展示会場でのPRに一肌脱ぐのが、専攻科の学生4人が制作したデジタルコンテンツだ。アクションパズルゲーム「ぷよぷよ」でプログラミング学習ができる教材を活用し、ピースの「ぷよ」に原方刺し子の模様をあしらった。

作り手の顔を知ってもらおうと、ゲームオーバーになると遠藤さんが「終わってしまったなあ」となどと写真と音声で登場する。P

R動画では、キャラクターがフィンランド語で原方刺し子を解説。遠藤さんが語る映像は字幕が流れる。

20日に同市の刺し子工房「創匠庵」で遠藤さんや学生らが作品を説明した。遠藤さんは「原方刺し子特有の『くぐり刺し』などの模様もあり、少しでも米沢の文化を国外にお知らせしたい」、学生は「若い人たちを含め、記憶に残る展示になってほしい」とそれぞれ語った。展示会は来年3月まで。

(高野周平)



制作した原方刺し子の作品を解説する遠藤きよ子さん